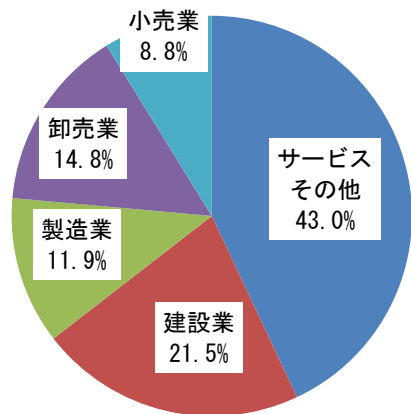


# 札幌商工会議所 定期景気調査結果（平成29年8月）

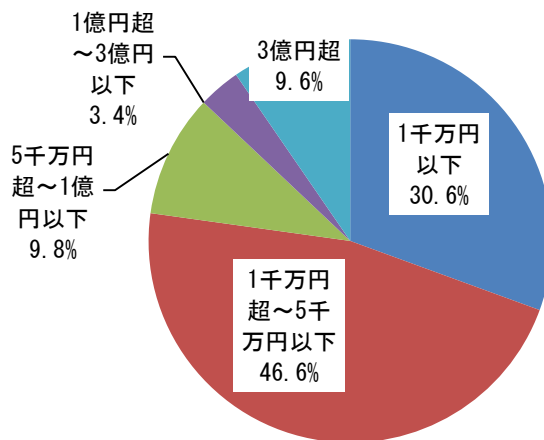
## <調査概要>

1. 調査期間 平成29年8月16日（水）～9月8日（金）
2. 調査対象 札幌商工会議所定期景気調査 登録企業854社
3. 回答状況 386社（回答率45.2%）
4. 調査項目
  - ①定例調査…8月の景況感（売上・採算等）と先行き見通しについて（D I 値 [※下記参照] を集計）
  - ②付帯調査…電力料金上昇による経営への影響について  
電力購入契約先の変更について
5. 回答企業属性

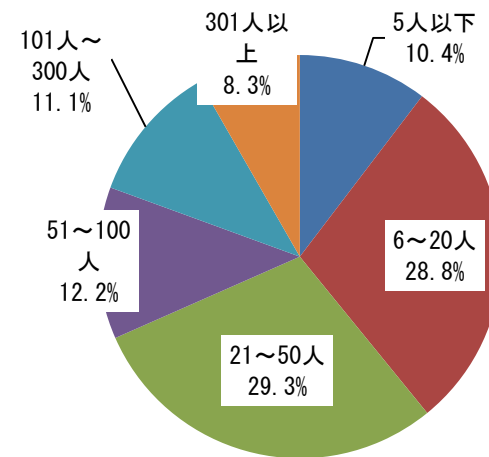
【業 種】



【資本金】



【従業員】



## ※D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況など、各項目についての判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

$$\text{業況 D I} = \frac{(\text{好転} - \text{悪化}) \times 100}{(\text{好転} + \text{不変} + \text{悪化})}$$

※先行き見通し D I = 当月(8月)と比べた、向こう3ヶ月(9月～11月)の先行き見通し

# 札幌商工会議所 定期景気調査結果（平成29年 8月）

## ① 8月の景況感と先行き見通しについて

### （1）8月の業況D I と先行き見通しについて

●8月の業況D I は▲7.3となり、前月から7.3ポイントの悪化でマイナスに転じた。（※7月D I 0.0）

産業別では、製造業でほぼ横這い(改善)となったが、建設業・卸売業・小売業・サービスその他では悪化し、サービスその他においてはマイナスに転じた。

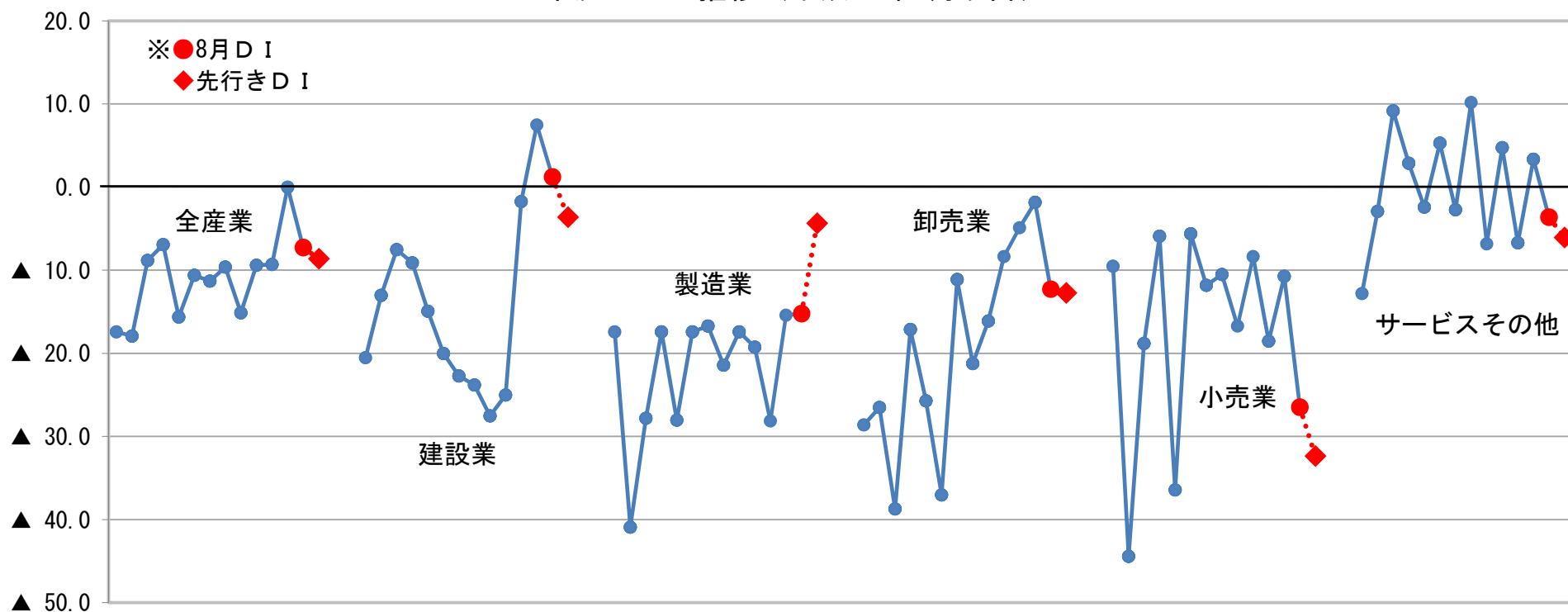
▲ 製造業（7月 ▲15.4→8月 ▲15.2）

▲ 建設業（7.5→1.2）、卸売業（▲1.8→▲12.3）、小売業（▲10.7→▲26.5）、サービスその他（3.4→▲3.6）

●向こう3ヶ月(9月～11月)の先行き見通しD I は▲8.6となり、8月から1.3ポイント悪化の見通し。

産業別では、製造業で改善の見通しだが、建設業・卸売業・小売業・サービスその他では悪化の見通し。

業況D I の推移（平成28年8月以降）



# 札幌商工会議所 定期景気調査結果（平成29年8月）

## （2）8月の売上D I と先行き見通しについて

●8月の売上D I は1.6となり、前月から10.5ポイントの減少となった。（※7月D I 12.1）

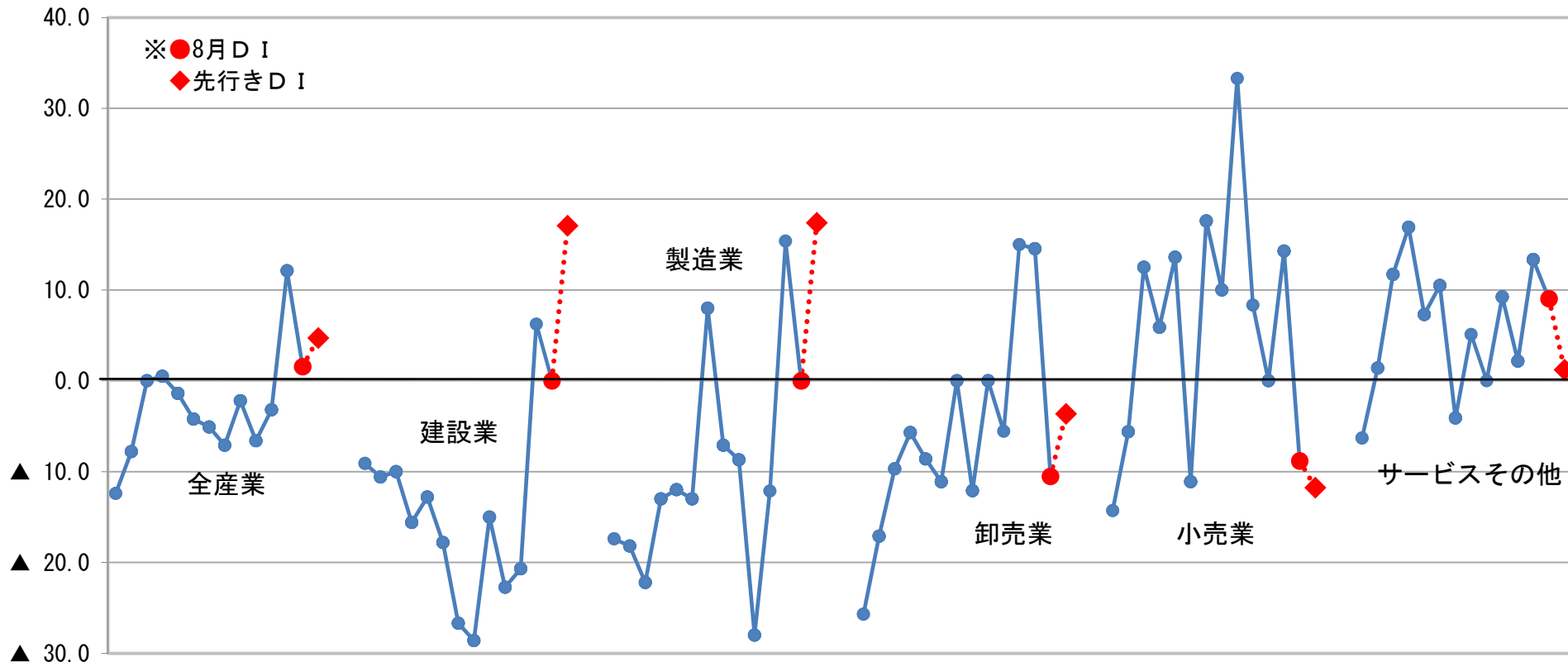
産業別では、全業種において減少し、卸売業・小売業においてはマイナスに転じた。

▼ 建設業（7月6.3→8月0.0）、製造業（15.4→0.0）、卸売業（14.5→▲10.5）、  
小売業（14.3→▲8.8）、サービスその他（13.3→9.0）

●先行き見通しD I は4.7となり、8月から3.1ポイント増加の見通し。

産業別では、建設業・製造業・卸売業で増加の見通しだが、小売業・サービスその他では減少の見通し。

売上D I の推移（平成28年8月以降）



# 札幌商工会議所 定期景気調査結果（平成29年8月）

## （3）8月の採算（経常利益）D I と先行き見通しについて

●8月の採算D Iは▲4.2となり、前月から7.3ポイントの悪化でマイナスに転じた。（※7月D I 3.1）

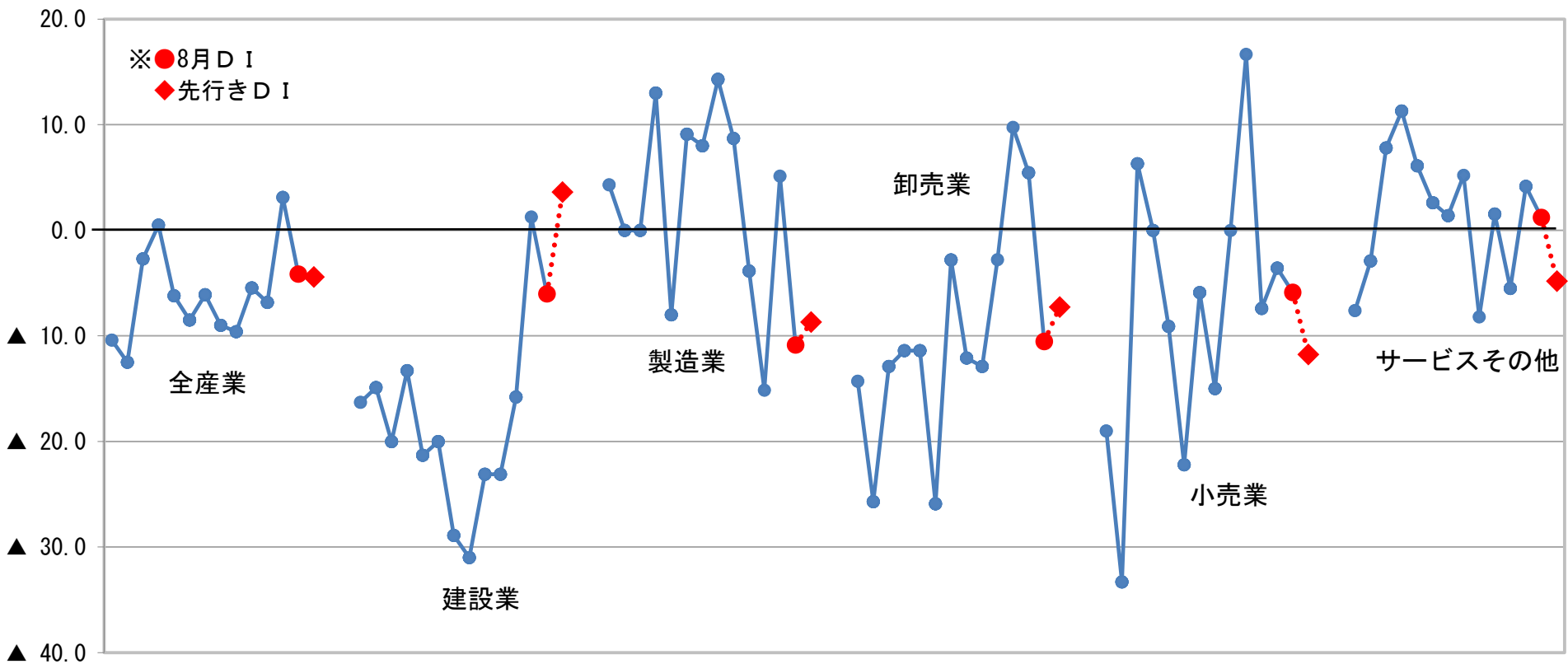
産業別では、全業種で悪化し、建設業・製造業・卸売業においてはマイナスに転じた。

▼ 建設業（7月 1.3→8月 ▲6.0）、製造業（5.1→▲10.9）、卸売業（5.5→▲10.5）、  
小売業（▲3.6→▲5.9）、サービスその他（4.2→1.2）

●先行き見通しD Iは▲4.4となり、8月からほぼ横這い（悪化）の見通し。

産業別では、建設業・製造業・卸売業で改善の見通しだが、小売業・サービスその他では悪化の見通し。

採算D I の推移（平成28年8月以降）



# 札幌商工会議所 定期景気調査結果（平成29年 8月）

## （4）8月の仕入単価D Iと先行き見通しについて

●8月の仕入単価D Iは▲31.1となり、前月から4.3ポイントの増加で仕入単価が「下落」と回答した企業の割合が増加し、「上昇」と回答した企業の割合が減少した。（※7月D I ▲35.3）

産業別では、建設業・製造業・卸売業・サービスその他で増加したが、小売業では減少した。

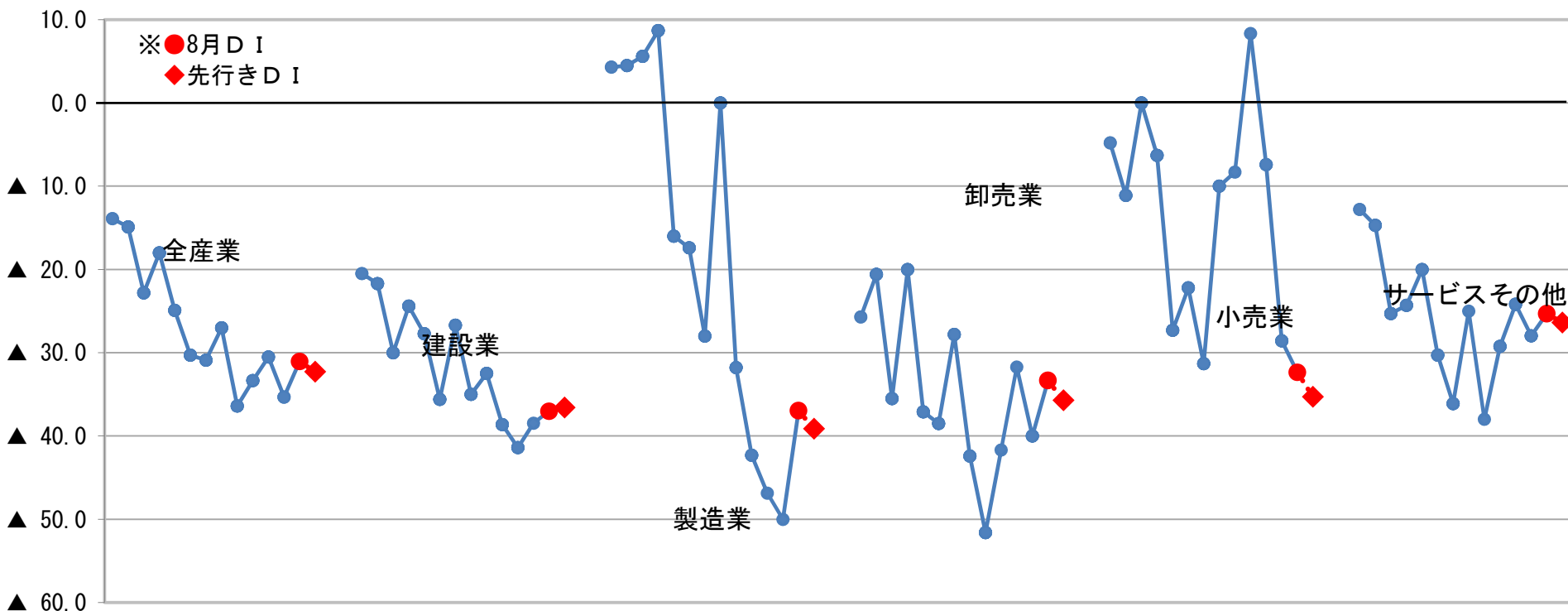
➡ 建設業（7月 ▲38.5→8月 ▲37.0）、製造業（▲50.0→▲37.0）、卸売業（▲40.0→▲33.3）、サービスその他（▲28.0→▲25.3）

➡ 小売業（▲28.6→▲32.4）

●先行き見通しD Iは▲32.3となり、8月から1.2ポイント減少の見通し。

産業別では、建設業で増加の見通しだが、製造業・卸売業・小売業・サービスその他では減少の見通し。

仕入単価D Iの推移（平成28年8月以降）



# 札幌商工会議所 定期景気調査結果（平成29年8月）

## （5）8月の従業員D I と先行き見通しについて

●8月の従業員D I は41.7となり、前月から3.4ポイントの増加で人手不足感が強まった。（※7月D I 38.3）

産業別では、製造業・サービスその他で人手不足感が強まった一方、建設業・卸売業・小売業では人手不足感が弱まった。

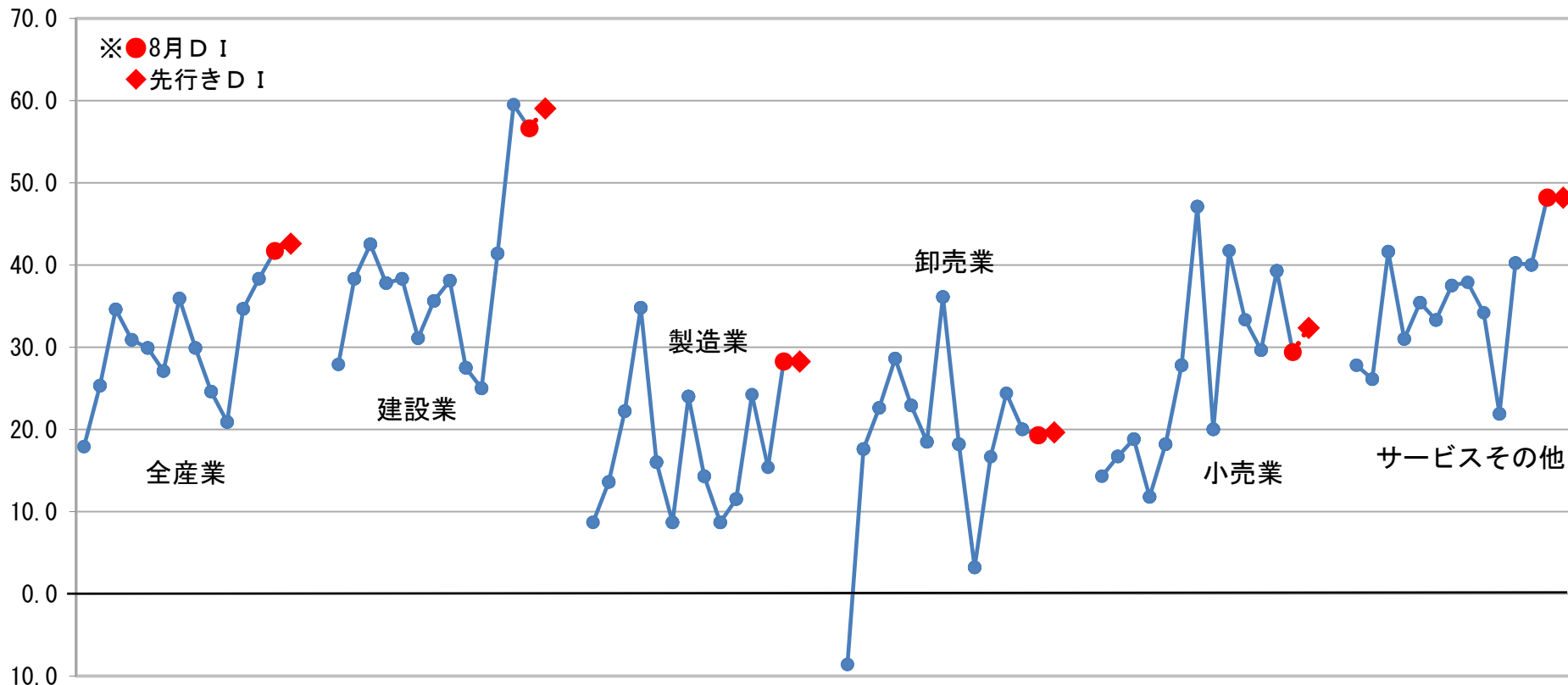
▲ 製造業（7月 15.4 → 8月 28.3）、サービスその他（40.0→48.2）

▲ 建設業（59.5→56.6）、卸売業（20.0→19.3）、小売業（39.3→29.4）

●先行き見通しD I は42.6となり、8月から0.9ポイントの増加で人手不足感が強まる見通し。

産業別では、製造業・卸売業・サービスその他で横這いの見通しとなった一方、建設業・小売業では人手不足感が強まる見通し。

従業員D I の推移（平成28年8月以降）



# 札幌商工会議所 定期景気調査結果（平成29年8月）

## （6）8月の資金繰りD Iと先行き見通しについて

●8月の資金繰りD Iは1.0となり、前月とほぼ横這いになった。（※7月D I 0.9）

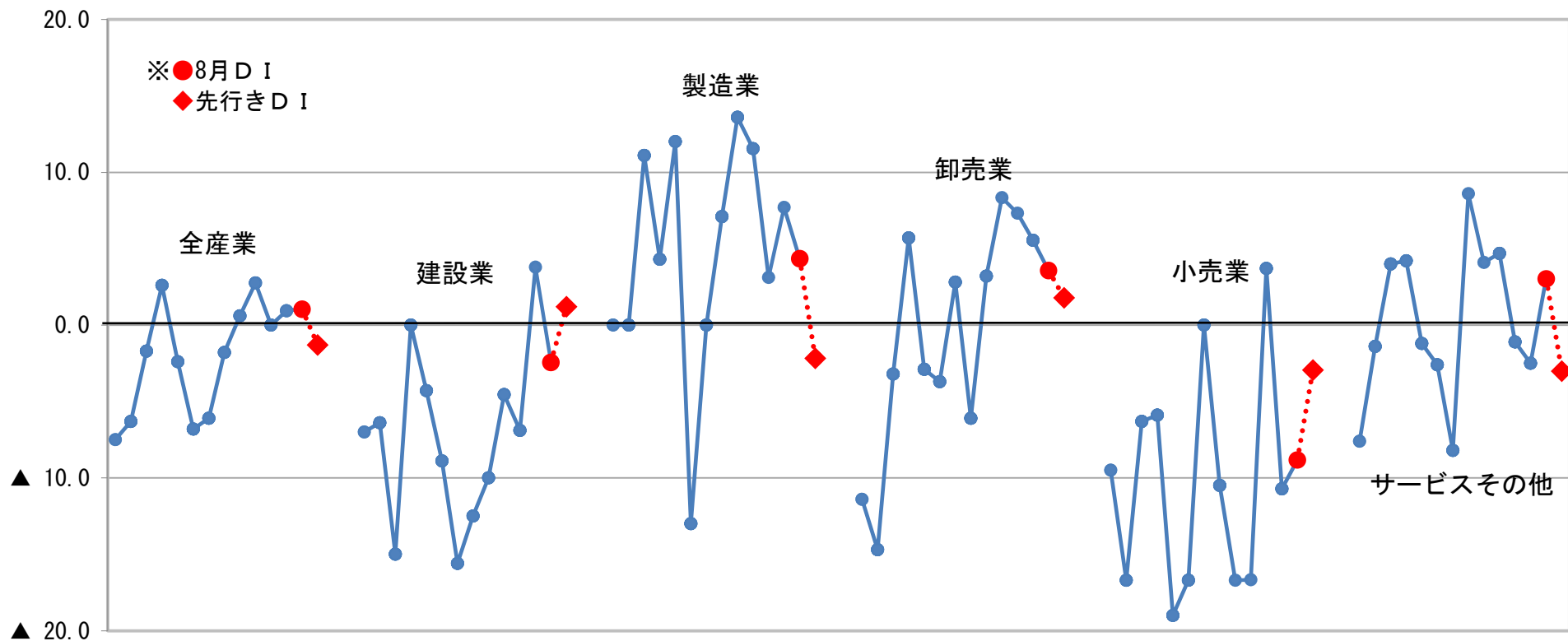
産業別では、小売業・サービスその他で改善し、サービスその他においてはプラスに転じた。一方で、建設業・製造業・卸売業では悪化し、建設業においてはマイナスに転じた。

- ▲ 小売業（7月 ▲10.7→8月 ▲8.8）、サービスその他（▲2.5→3.0）
- ▲ 建設業（3.8→▲2.4）、製造業（7.7→4.3）、卸売業（5.6→3.6）

●先行き見通しD Iは▲1.3となり、8月から2.3ポイント悪化の見通し。

産業別では、建設業・小売業で改善の見通しだが、製造業・卸売業・サービスその他では悪化の見通し。

資金繰りD Iの推移（平成28年8月以降）



# 札幌商工会議所 定期景気調査結果（平成29年 8月）

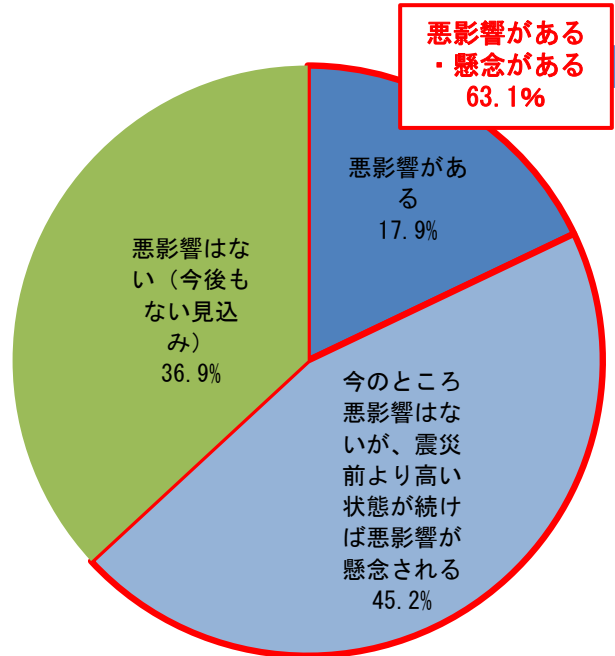
## ② 電力料金上昇による経営への影響について

### （1）東日本大震災後の電力料金上昇による足元の経営への影響について

●東日本大震災後の電力料金上昇について、経営に「悪影響がある・懸念がある」と回答した企業は63.1%、「悪影響はない」が36.9%となった。

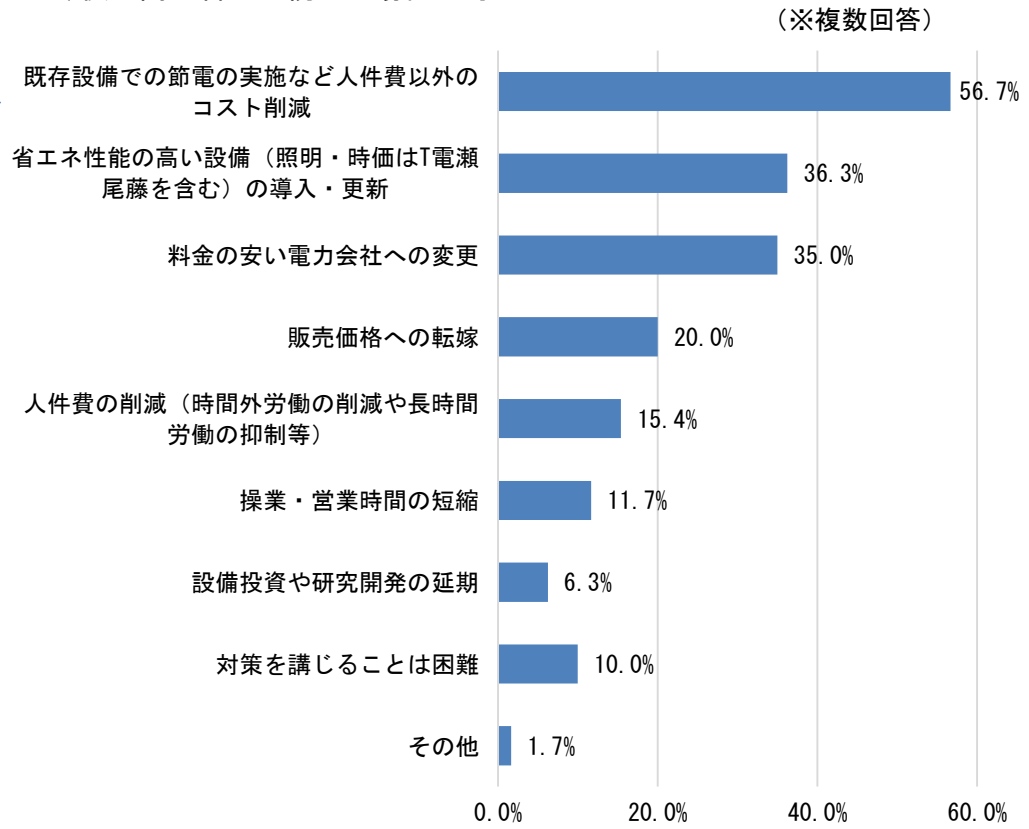
今後も震災前より高い電力料金が続いた場合の対応については、「既存設備での節電の実施など人件費以外のコスト削減」が56.7%と最も多く、「省エネ性能の高い設備の導入・更新」が36.3%、「料金の安い電力会社への変更」が35.0%となった。

【電力料金上昇による経営への影響】



悪影響がある・懸念がある  
63.1%

＜今後も高い料金が続いた場合の対応＞



（※複数回答）

0.0% 20.0% 40.0% 60.0%



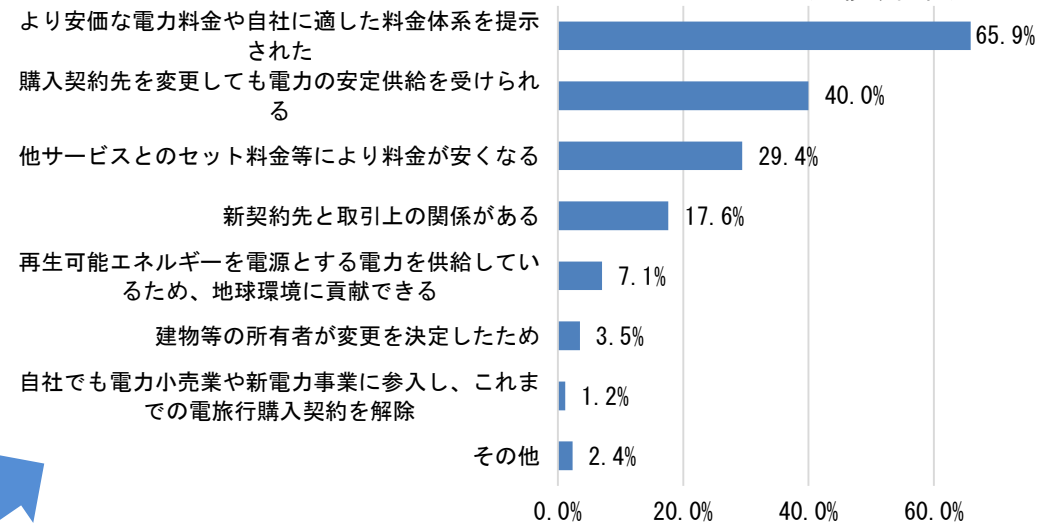
# 札幌商工会議所 定期景気調査結果（平成29年 8月）

## ③ 電力購入契約先の変更について

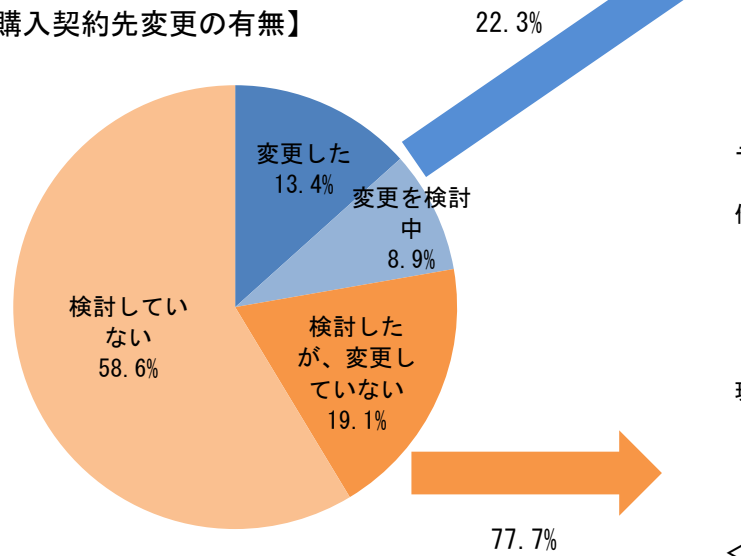
### （1）電力小売全面自由化以降の電力購入契約先の変更について

● 電力小売全面自由化以降の電力購入契約先変更について、「変更（検討中含む）した」と回答した企業が22.3%、「変更していない」が77.7%となった。変更（検討中含む）した理由としては、「より安価な電力料金や自社に適した料金体系を提示された」が65.9%と最も多く、次いで「購入契約先を変更しても電力の安定供給を受けられる」が40.0%、「他サービスとのセット料金等により料金が安くなる」が29.4%となった。変更していない理由としては、「しばらく様子を見るべきと判断」が46.4%と最も多く、次いで「電力の安定供給に不安がある」が26.5%となった。

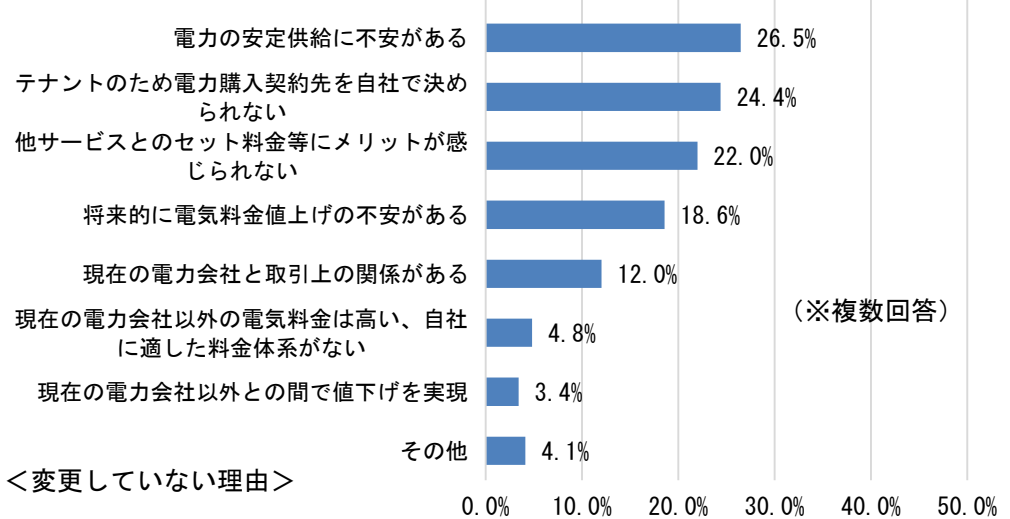
#### <変更（検討含む）した理由>



#### 【電力購入契約先変更の有無】



#### <変更していない理由>



# 札幌商工会議所 定期景気調査結果（平成29年8月）

## ④ 会員企業の声

### （1）建設業

●都市圏の再開発等が今後見込まれるが、ほとんど道外業者の施工により行われており、道内業者としての受注が難しい。

土木・建築総合建設業

●業容の維持・拡大のためには設備投資は継続していきたいが、収益環境は悪化傾向にあり、中期的にみて積極策には出づらい。

道路区画線、清掃、  
除雪 他

●資材の仕入れ価格が製品によっては昨年から15%程度も上がっている中で、工事単価は変わらず、賃金を含め経費が増えている状況。各種助成金の利用により成り立っている。今後、工事単価の見直し、経費の見直し等行う予定。

ガス配管工事業

●ここ2～3年慢性的に人員不足が続いている。インターネットや求人誌等を利用しているが、なかなか集まらない。現在は何とか既存の人員でやりくりしているが、従業員が高齢化してきて定年退職者も増える中、将来的に不安を感じている。

土木工事業

●新卒・中途採用とも人材が集まらない。人材不足により、時間外労働の削減が困難となっている。

舗装工事業、  
地盤改良事業

### （2）製造業

●消費者減少、労働力不足、賃上げ、ブラック社員の顕在化というように企業は以前のように拡大主義には簡単に動けなくなった。そういう意味で行政からの援助などの補助金、助成金の必要性は高まる一方になると考える。

魚肉練り製品の製造販売

●助成金制度の活用を視野に入れ、設備投資を検討している。

生コンクリート製造販売

# 札幌商工会議所 定期景気調査結果（平成29年8月）

## （3）卸売業・小売業

●売上規模の急拡大により、資金繰り調整が必要。本来の成長速度にブレーキがかかっている。食品とICTのノウハウを活かした事業展開は、北海道産業活性化のモデルケースとなり得るので、適切な資金調達の体制を、コンサルティング企業等へ相談している。

生鮮魚介卸売

●仕入の7割以上を輸入品で賄っているが、最近になってEU豚肉、オーストラリア、ニュージーランドの羊肉と中国の勢いが強く、またEU豚は米国、韓国等の輸入も多くなり、これらに加えて米国牛肉セーフガード発令で今後の価格高騰、品薄感が感じられる。

食肉卸売

●自転車業界は年々厳しくなっているところへ大手の参入によりますます厳しい状況である。サイクルスポーツは自転車活用推進法が出来たが活性化するにはまだまだ時間がかかると思われる。自転車道路を整備し、安心して走れる場所を作してほしい。

自転車・自動二輪小売

## （4）サービスその他

●広告業界も人手不足が問題となっている。大学や専門学校でもデザイナー志望の学生が減少し、ウェブや動画クリエイター志望の学生が増加している。

広告代理業・広告制作業

●最低賃金が810円となり、請負業としては限界を超えている。請負契約額の交渉によっては契約破棄もある。最低賃金が上がっても、実勢賃金は上回っており、更に人材確保が難しいことが経営状況を下降させている。

総合ビルメンテナンス業

●材料費の仕入れ価格UPに対して、作業価格を値上げしたいが、同業他社との価格バランスの関係により作業単価への転嫁が難しく苦慮している。

補修業

●地価及び建築費が高止まりで推移している状況であり、用地仕入れについて、価格の上昇・仕入れエリアでの同業他社との競合により、厳しい状況が続いている。収益向上に少しでも寄与できるよう、全社員で経費及びコスト削減を常に意識して業務にあたっている。

不動産業

●収益力向上について、現状のメーカー依存の受託開発構造から、エンドユーザー直接取引へのシフトや、ニアショアによる新しい受注形態への転換を図っている。また、新サービスの開発を行ってストックビジネスにも挑戦している。

ソフトウェア業